

# 2

## 役割付与型の提案会議

開発チームに入り、よりよい開発へのディスカッション

ハッカソンで  
生まれた開発プロジェクト

「この開発プロジェクトを  
より良いものにするには？」

をテーマにチームに入って  
実際にディスカッション！

でも・・・

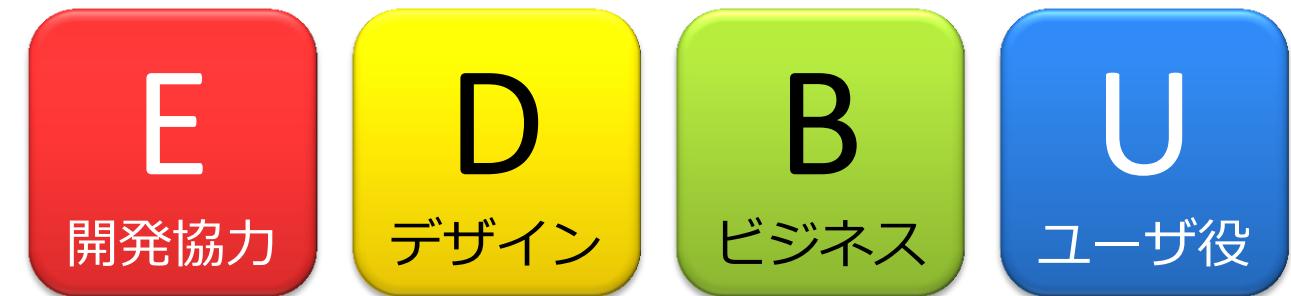
メンバーでもないのに  
実際のプロジェクトに  
意見できるものなの？

大丈夫です！

「今この場だけの仮想の役割」  
を1人1つ担って、  
提案会議をします

# 「役割付与型の提案会議」

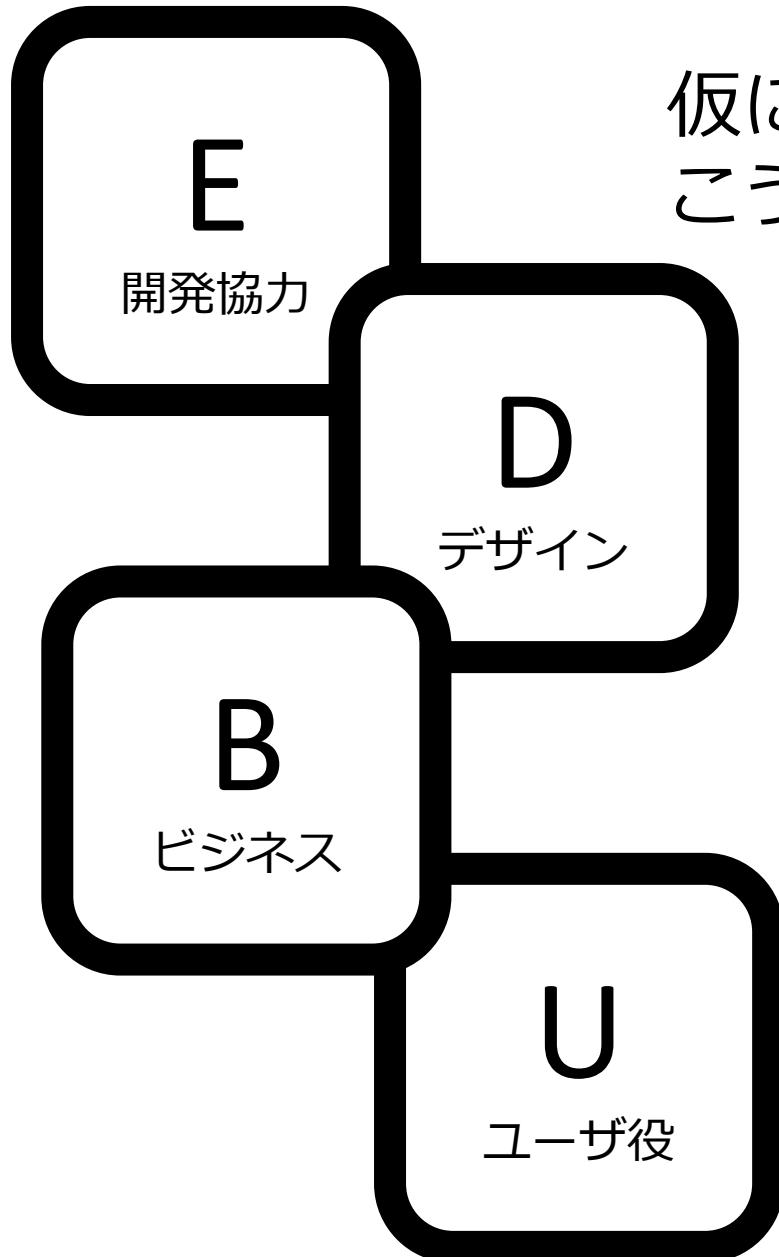
仮想の役割を  
担い提案議



新設もOK



# 好きな役割を選んでください



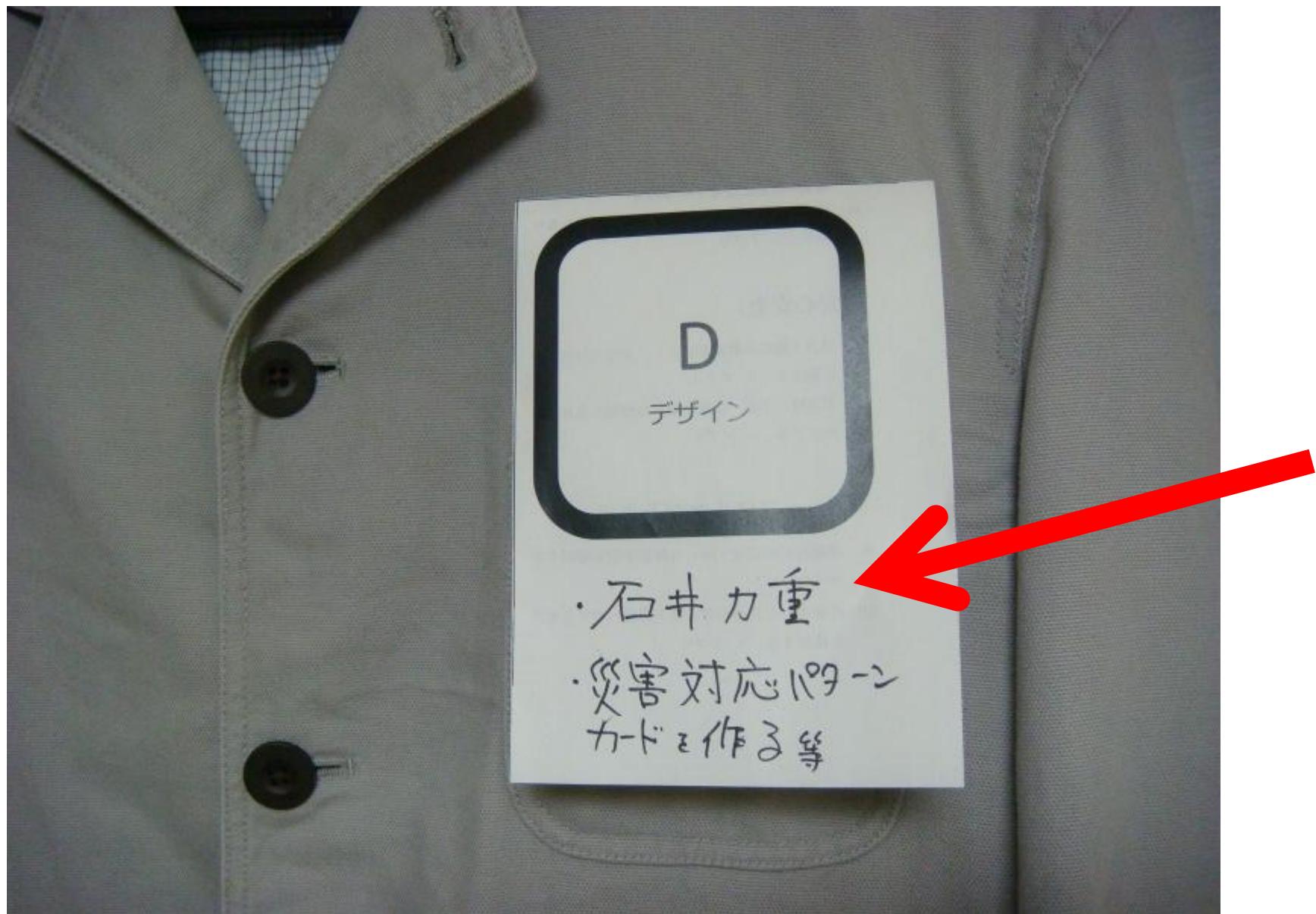
仮に) 技術的に協力をするなら  
こういうのはどうだろう、を提案

仮に) デザイン面で協力するなら  
こういうのはどうだろう、を提案

仮に) 広報や渉外で協力するなら  
こういうのはどうだろう、を提案

ターゲットユーザとして  
どうなるとうれしいかを提案

# 「名前」「できそうな事」を書く



# この場の2つの狙い

1. 開発チームのメンバーにとって：  
更に発展するための情報や、一緒に作れそうな、新しいメンバーと出会える（かも）
2. 一般参加者の方にとって：  
実際に開発しているプロジェクトを、よりよくするための議論に参加することができ、某課題×ITをより詳しく考える材料を得る

# 各プロジェクトのプレゼン（20分）

- 皆さんは、聞きながら、どこに入りたいかを考えてください。
  - プrezen内容
    - 作っているものの概要
    - これまでにしてきたこと
    - 今後の見通し
- (内容が分かれば、この構成でなくてもOK)

# ディスカッション (30分 + $\alpha$ )

- 各自、興味のあるプロジェクト参加します。
- 「この開発プロジェクトを  
より良いものにするには？」  
をテーマにディスカッション (30分 +  $\alpha$ )
- 人数を適切なサイズにすることで、  
議論をしやすくします。
  - 大きすぎるところは、グループ内に小グループを作り、  
同時並行でディスカッションも、可。

## グループ内の、小グループに分割について

---

大きすぎる会議ならば「小グループ」にわけますが、開発チームのメンバーが、小グループに必ず一人は、情報提供役として入っていることが必須です。

その制約のため、ケースもあるでしょう。その場合は、上限を超えた人数分だけ、別チームへ移動してください。

## レビュー (20分)

---

各チーム、提案会議から得られたものを、3分程度で紹介

チームを小グループに分割したところは、合計、3分間の枠です。代表例を紹介するか、全部を素早く紹介するかはお任せします。

実施してみて、  
フィードバックが得られた

- ・ プロジェクトを発展させるために、解消すべき課題がハッキリした。
- ・ 新しいアイデアを得た。
- ・ 新しい協力者が、開発コミュニティーに加わった（イベント参加者の6%位？ 3/50）
- ・ 音楽を大きな音でかけてはいけない。  
(ブレストとは違い、細やかな議論がいる。大きな音楽は邪魔になる)

# 会議のサイズは 5人以上12人以下にする

【！】 小さすぎる（4人）と厳しくなる。

ブレストなら小さいほうが良いが、確度の高いことを  
練ろうとすると、人数が少ないと、  
不確実な要素が多すぎて議論がしにくくなるため。

# 接触面積を増やす！

このワークを1ラウンドとし  
メンバーをシャッフルし  
2～3ラウンド行うのもよい。